

No.148  
2005.  
7.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行  
〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111  
振替名古屋637909

## 博物館の存在理由 — 足元の実体を感じ知る —

岐阜県博物館協会副会長  
岐阜県博物館長 下畑 五夫



「バイオリンは楓の木からつくりますがその楓を育てた土から調べないといひバイオリンはつくれません」  
(永六輔編『職人』より)

先日、日本の博物館協会の評議員会の席上、今博物館は激しい社会変革、厳しい運営環境、そして混沌とした方向性などから、巷間「博物館冬の時代」といわれているという話がありました。しかし、こういう時だからこそ博物館の存在理由・使命を原点から考え、新しい方向性を模索する好機と捉えた方がいいのではないのでしょうか。

ヒト（動物）がヒト（人間）になるためにはDNAによる生命システムの伝達（遺伝）以外にミームによる文化情報伝達（一種の遺伝）すなわち学習（教育）が必要です。ヒトは、明瞭な言語能力を駆使して教育システムを構築し、地球上に文明社会（人間圏）を創って今日に至りました。この教育システムの一部を構成しているのが博物館です。したがって、この役割が小さくなるのは到底思われませんし、以下の理由でさらに重要性が増してきていると思います。

抽象的思考が可能となったヒトは、人類全体が、「より多く、より速く、より便利」であることがすなわち豊か（善）であるという共通の右肩上がり指向（幻影という人もあります）を持つことになりました。この豊かさは「もの・エネルギー」の流れをひたすら速めることによって達成されてきました。そのため、地球システムに様々な場面で重大な

影響を与えて、地球システムそのものが大きく変わり始めているところまで来てしまいました。しかし、私たちヒトが生物として対応できる変化の速さには当然限界があります。現代を表して「高速道路を自転車で走っているような時代」（ボイド・イトン）という人がいますが、まさに危なっかしい状態です。

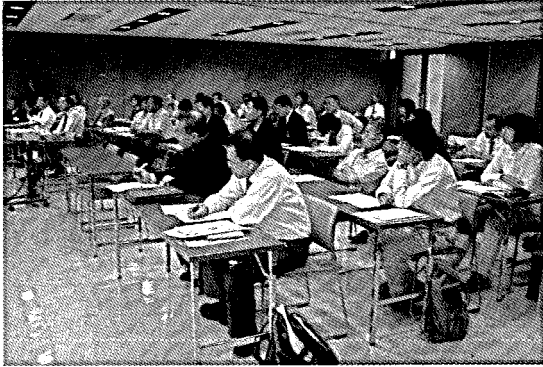
さらに、近年は極端な情報化時代となり実際の「もの・こと」がほとんど認識されず、巷には玉石混淆のというか魑魅魍魎のごとき情報が溢れています。私たちは、その実体のない情報に操られあるいは溺れているような状態です。まさに地に足がついていない社会です。これも殺伐とし、理解し難い事件・出来事が頻発する遠因になっているかもしれません。

こういう時代だからこそ、本物の「もの・こと」に向かい合い、自分の五感で自然や歴史を認識し読み、あるいは本物の芸術文化に感動し、潤いのある脳力を身に付ける場が必要不可欠と考えます。その場を提供するところの一つがまさに博物館なのです。まずは博物館へ出かけ、展示物などの資料を自分の五感で感覚する。手間暇がかかり、現代の忙しい風潮（ファースト指向）にそぐわないかもしれませんが、だからこそ敢えて手間暇かけて博物館へでかけ、本物の「もの・こと」に向かい合いたいものです。

人間社会が、妙なる音色を奏でるためには地に足をつけ、まず私たちの生活空間（郷土・日本・地球・・・）を感覚し知る試みをする事が、結局は確かな歩みを約束すると思います。

## 第61回 岐阜県博物館協会会員研修会報告

日 時：平成17年6月24日（金）13：00～16：00  
場 所：岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」  
参加者：40名



昨年7月にオープン、まもなく1周年を迎える「岐阜県世界淡水魚園水族館」において、初めての岐阜県博物館協会会員研修会が開催されました。

水族館は、山溪・溪谷・水郷など代表的な木曾川の流れを創出した「河川環境楽園 木曾川水園」の公園内に位置しています。

木曾川の源流から河口に至るまでの〈自然〉〈文化〉〈風土〉を、楽しみながら学ぶことができる参加体験型の公園です。「自然発見館」「川原広場」「河の森」では、木曾川水園とその周辺をフィールドとした環境教育の拠点となっています。

今回の研修会は、こうした特徴を持つ環境共生型テーマパークの中にある水族館で開催されたこともあり、『自然環境とのかかわり』と『来館者増へつなげる工夫』が研修のテーマとなりました。参加者は、施設の事例に基づいた発表を聞きながら、熱心にメモをとっていました。

まず、堀由紀子館長からご挨拶と開館までの経緯や施設の概要などについて、お話をうかがった後、岐阜県世界淡水魚園水族館の竹嶋徹夫氏より、“水族館における環境保全への取り組み”として、展示生物の収集、繁殖の実情、特に稀少動物の保護、繁殖、啓蒙についての説明がありました。

そして次に、圓戸恭子氏より“岐阜県世界淡水魚園水族館における学習プログラムの紹介”として、「ポイントガイド」や「バック

ヤードツアー」、カルガモの卵や羽、ヘビの脱皮殻などに実際に触って観察できる「ハンズオンガイド」、「工作」、「水族館講座」、夏休みに開催している「ものづくりワークショップ」、「サマースクール」など、実際に水族館で開催されている学習プログラムなどについて、具体的な紹介がありました。

そしてその後、講師の竹嶋氏と圓戸氏らの案内によって、水族館のバックヤード施設の見学が行なわれました。普段は見る事ができない水槽の裏側や繁殖室、餌などの管理や、水槽の浄化設備なども見学しました。



また、展示室では、誕生して間もないカワウソとその親子の様子が見られるなどの展示環境や、施設の特徴を示す工夫がされた部分などを見学しながら、水族館職員へ熱心な質問をしていました。身近な自然環境を重視しながらの博物館活動は、今後は大切な課題となることでしょう。



(機関紙委員 内藤記念くすり博物館 野尻佳与子)

## 平成17年度東海地区博物館連絡協議会総会 「日本博物館協会東海支部総会に出席して」

日 時：平成17年7月15日（金）13：00～16：50

場 所：横浜情報文化センター 6階ホール 日本新聞博物館

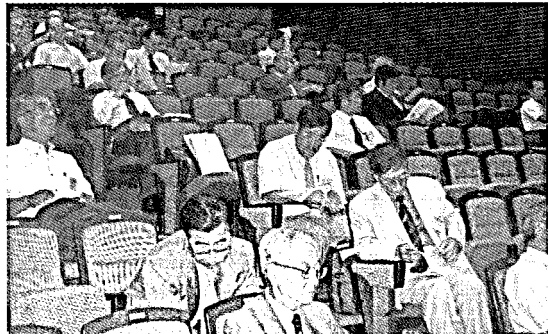
参加者：静岡、愛知、山梨、神奈川、岐阜より総勢66名、（本県より9名）

梅雨明け間近な7月15日東海地区博物館連絡協議会が横浜で開催されました。総会会場となった横浜情報文化センターは、横浜市のJR関内駅の近くに位置します。

横浜情報文化センターは、新聞・放送の二大メディアによって運営・一般公開される、日本新聞博物館（ニュースパーク）と放送ライブラリーを中心に情報関連産業オフィス、ホール、会議室、店舗、パブリックベースなどからなる複合施設です。

市民が集う施設として日本大通りに賑わいを造りだしておりました。

始めに総会開会にあたり、東海地区博物館連絡協議会 西川会長よりご挨拶をいただきました。また、日本博物館協会五十嵐専務理事、神奈川県引地教育長よりお祝辞をいただきました。



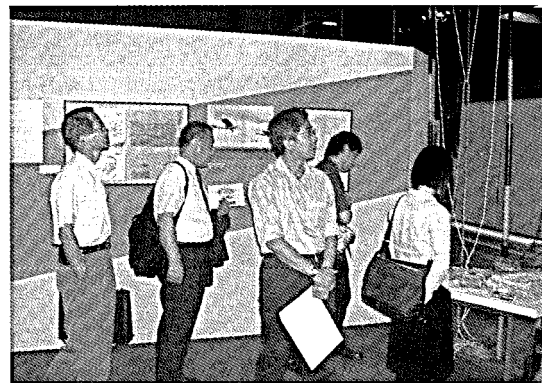
続いて豊橋市自然史博物館 前館長 糸魚川淳二様が博物館界の為に顕著な貢献を果たしたものであるということで表彰を受けられました。糸魚川先生は、「昔、ヨーロッパの博物館を見学して楽しいもの、大切なものであることを痛感しました。そして今は難しい時代だが現在でも博物館はとても重要であると考えております。」と御礼のご挨拶を述べられました。

また平成18年度の開催県が岐阜県に決定されました。

その後、日本博物館協会五十嵐専務理事より最近の動向と日本博物館協会の主要事業について説明がありました。特に指定管理者制度やバブル経済の後遺症はあるが「対話と連携」などを通しての活性化についてお話をいただきました。



さて、記念講演会では、「横浜の近代建築の保存と活用」と題して、横浜国立大学大学院教授 吉田 鋼一先生よりパワーポイントを使いながら①ヨーロッパ建築遺産憲章とアムステルダム宣言、②保存の理念③オーセンティシティ④横浜における保存活用の事例について懇切丁寧なお話をいただきました。

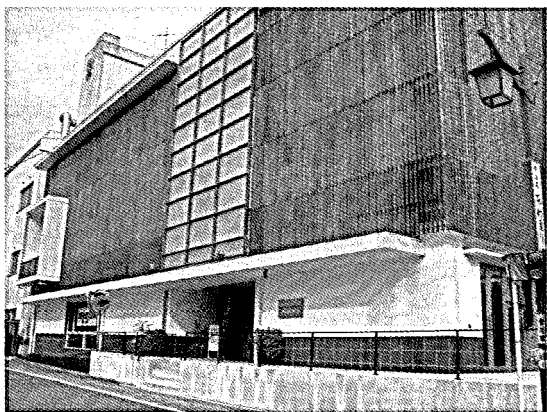


その後、日本新聞博物館の観覧が行われました。日本新聞博物館（ニュースパーク）は、新聞の歴史や現在の発行のしくみ、そして民主主義に果たす役割と機能まで楽しく理解することができる施設です。新聞に関連した博物館は他にもありますが、その多くはジャーナリズムや新聞製作の歴史の紹介にとどまったものです。ニュースパークは新聞の「現在」に重点を置き、編集・製作とともに広告や販売、文化・スポーツ・教育・福祉事業など、新聞・通信社のあらゆる活動を取り扱い、多面的に紹介しています。今後の館の展示等に変参考になる見学会でした。

（機関紙委員 光記念館 吉井隆雄）

## 中津川市中山道歴史資料館

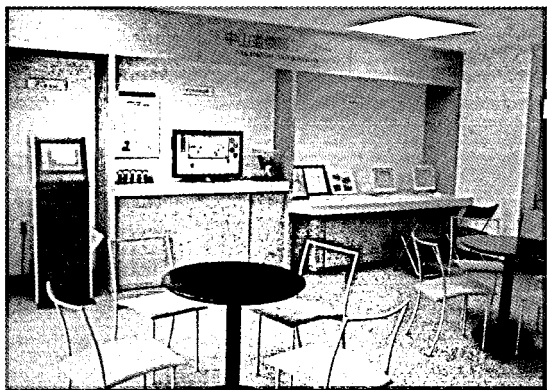
〒508-0041 岐阜県中津川市本町2-2-21  
TEL 0573-66-6888 FAX 0573-66-7021  
URL <http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp>  
e-mail [tabibito@city.nakatsugawa.gifu.jp](mailto:tabibito@city.nakatsugawa.gifu.jp)



岐阜県中津川市内の旧家に保存されてきた中山道「中津川宿」にまつわる貴重な資料を展示する中山道歴史資料館が同市本町に平成16年4月に開館しました。同資料館は、旧中山道沿いにある脇本陣跡地であるNTT中津川ビルの使用されていなかった1、2階を使用しています。館の目的は中心市街地の活性化や重要な古文書等の収集・保存をし、その収蔵資料を広く市民に理解してもらうために展示や古文書講座などを実施することです。

この資料館の特徴は、幕末から明治維新までの1級資料を収蔵・展示しているため、それらを用いて当時の調査研究を行うことができます。また夏休みの研究合宿として大学などの機関にも場所を提供しています。

施設内は、まず入口を入った右側の情報コーナーで、バーチャル映像で江戸時代の中津川市中山道の様子を再現しています。



展示室1では、現在企画展「江戸の学びと学校の始まり」(～9月30日)を開催しており、実際に使っていた参考書や辞典を展示した、当時の書齋を復元し、中津川宿における人々の学びを紹介しています。展示室2では、常設展「激動の幕末と明治維新」を開催しており、当時の国家機密である薩長同盟の密談を伝える古文書、「夜明け前」の主人公、青山半蔵のモデルといわれる島崎藤村の実父、島崎重寛の句や、皇女和宮の降嫁に随従した江戸城大奥老女花園から、市内の旧家に宿泊のお礼として贈られた人形や装身具などが展示されています。

これらの展示を通していえることですが、展示内容がどちらかというと研究者向きではありますが、資料館に行く前にこの時代の勉強を少ししていくとより一層理解が深まり、展示資料の貴重さ、重要さがわかると思います。



【交通】中央自動車道「中津川IC」から車で10分

JR中央線「中津川駅」から徒歩10分

【駐車場】無料(中央公民館との共同駐車場約8台)

【開館時間】午前9時30分から午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週月曜日、毎月第3水曜日  
(月曜日が祝日の場合は翌日の火曜日が休館)

【入館料】一般310円(260円)

小中学生100円(70円)

\*カッパ内は10名以上の団体料金です  
市内6館共通回数券

(中山道歴史資料館・青邨記念館・  
苗木遠山史料館・子ども科学館・  
鉾物博物館・東山魁夷心の旅路館)

(機関紙委員 土岐市埋蔵文化財センター 中島茂)